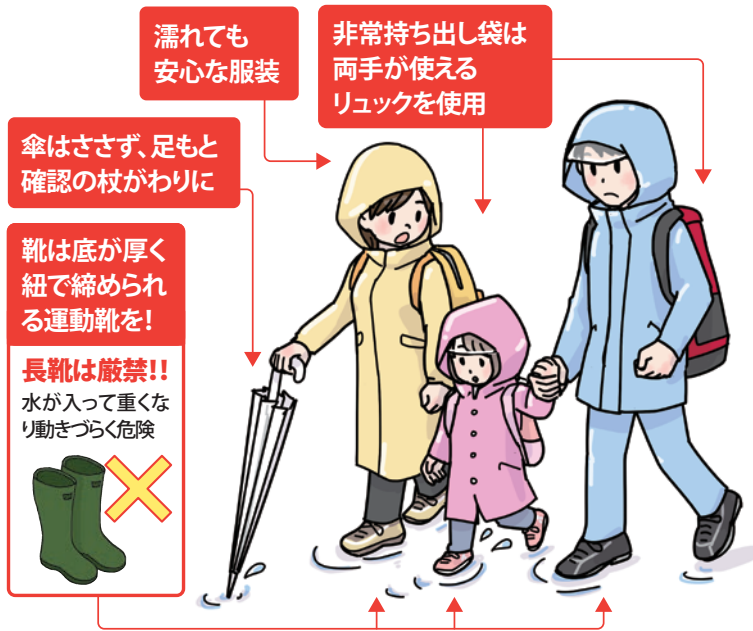


# 避難時の注意

風水害は避難するタイミングによって、状況が大きく変わります。発表される警戒レベル情報を元に、しっかりと判断して逃げ遅れないよう安全に避難しましょう。また、やむを得ず雨の中を徒歩で避難する状況になった時は、下記の項目に注意しながら、ケガのないよう気をつけましょう。

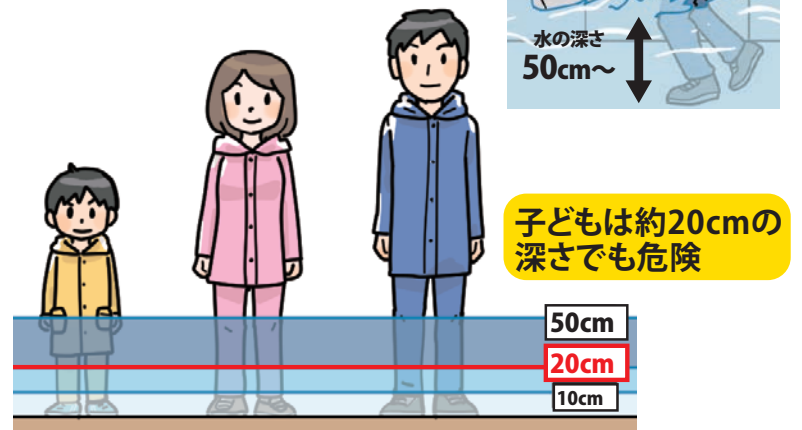
## 避難時の服装

荷物は少なく、動きやすい服装で避難。



## 歩ける深さに注意!

歩行可能な水深の目安は、ひざ下くらい(約50cm)まで。水深が腰まであったり、浅くても水の流が速い場合は無理をせず、高い場所(2階以上)に避難。



## 避難前にすること

家を出る前にブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めるなど火の元を確認。また、家族や知人などに避難することを連絡。



## 足もとに要注意!

道路が浸水している場合、濁っている水面下は危険な場合も。長い棒や傘などを杖代わりにして、安全を確かめながら歩く。



## 助け合いながら複数人で避難を

夜間の移動は避け、できるだけ明るい時間に複数人で避難。また近所に乳幼児や高齢者、傷病者などの要配慮者がいる場合は、積極的に避難の協力を。



## 危険な場所へ近づかない!

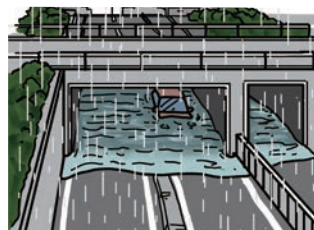
河川や用水路などの様子を見に行くのは大変危険。絶対に近づかない。



## 車で避難する場合

### ■ アンダーパスは通らない

道路の下をくぐる場所(アンダーパスやボックス)は、構造上雨水がたまりやすくなっているため、大雨のときは通らない。



### ■ 車が浸水したらすぐ車外へ

乗車中に水深が約30cmに達すると、車のエンジンは停止する。水深と流速が増すと、車ごと流される危険性があるので、すぐに車外に出る。

